

事例紹介

ふるさと雇用再生
特別基金事業

【教育・文化分野】

宮島細工の伝統工芸士は彫刻とロクロで各2名まで減少しており、技術の断絶が危惧されています。伝統産業の担い手を育成すると同時に、後継者が安定した生活ができるよう、新たな土産物を開発し、安定した雇用と技能継承の仕組みを構築したいと考えています。



宮島細工協同組合理事長
広川和男さん

事業概要

宮島細工を活用した、新たな土産物の開発、宣伝、販路開拓を行い、新しい宮島ブランドを作ることで伝統産業の後継者の育成及び観光振興を図る。



委託先

宮島細工協同組合
(広島県廿日市市宮島町)
組合員数12人

新たな
雇用創出数

4人
宮島細工の後継者(3名)
事業コーディネーター(1名)

事業費

約988万円(平成21年度)

事業の開始

平成21年5月

地域雇用失業情勢
(事業開始時点の有効求人倍率)

広島県0.54倍(季節調整値)
廿日市管内0.19倍(原数値)

業務内容

古くから宮島にある伝統工芸「宮島細工」を活用した、新しい土産物の開発、宣伝、販路開拓を行い、新しい宮島ブランドを作ることで、伝統産業の後継者育成、宮島観光の振興に繋げる。



厳島神社の大鳥居



素地を活かした、繊細で写実的な装飾彫刻が特徴

事業の背景と ねらい

杓子を始めとして、彫刻、ロクロ、刳物などの木製品を制作する「宮島細工」の伝統工芸士が各2名となり、技術の断絶が危惧されている。



宮島の杓子「みやじまさん」



ロクロ細工 宮島彫り 杓子

宮島への観光客はH20で343万人と急増しているが、島内で製作された土産物品は少なく、一人当たりの観光消費額が増加していない。

「宮島細工」の後継者を3名雇用し、技術指導を行い、伝統工芸の後継者として育成するとともに、新しい土産物品の開発を行う。

事業コーディネーターを1名雇用し、新たな販路を開拓するとともに、インターネットを活用した情報発信を行い、宮島細工の今後の方向づけを行う。

宮島細工職人の声

1日を通して宮島彫りの仕事ができるようになり、大変嬉しい。今後も地道に継続していきたいと思えます。

今後の姿と課題

新たな土産物の素材として、宮島の地域資源を活用できないかと模索しています。

廿日市市商工労政課 大年 勇樹さん



宮島彫り 木肌にノミの刃を当てている様子